

「俺が引き受けたから心配するな」

「ご開山さま、ありがとうございます。あなたのおかげで私もあなたと同じお念仏をいただいて、あなたと同じご信心をいただいて、同じお浄土で今度は遇わさせていただきます」と、お礼いうためにお参りにこられたんや。それが報恩講です。



阿弥陀さまのお救いがいちばんハッキリするのは、「なんまんだぶ」という声です。お念仏を称えればこの声が聞こえてくるはずだ。聞こえなんだから称えなはれ。称えたら聞こえてくるだろう。なんぼ耳が遠うても、自分のいうた声は聞こえるわ。阿弥陀さまがね、「必ずたすけるぞ、私にまかせなさいや」とおっしゃってくださいさっているんです。このお言葉に対して、そうやったなあど気がついたら、「ありがとうございます」というたらええ。気がつかなんたら黙っとったってええ。いや、「たすける」というてくださってんねんから、黙っとったかて助けてくださる。そうでしょ。

信心ちゅうのは、ワシがしっかりすることとちやいまっせ。病気でもしてみなはれ、シッカリなんかできますか。そしたらシッカリせよというのは、仏さまが私におっしゃってるんと違うだろ。仏さまのほうが「心配するな、私がシッカリしてるから、俺にまかせとけ」とおっしゃってるんですよ。だから「ありがとうございます」といいなはれ。いえなんたらそれでもええわ、それでええ。まかせといたらええんだ。それが「まかせ」ということや。阿弥陀さまは「たすけてやるぞ」とおっしゃる。それが「なんまんだぶつ」という言葉ですよ。「俺が引き受けたから心配するな」というのが、南無阿弥陀仏という言葉の意味なんだ。ご開山はそうおっしゃる。

梯實圓和上のご法話
『伝道』2015 No84
星野親行師の寄稿より

親鸞聖人のご生涯

1173年5月21日(承安3年4月1日)、京都・日野の里で誕生。9歳で得度(仏門に入り僧となること)。比叡山で20年間修行されたが、迷いや苦悩から逃れることができなかったため、山を下り、六角堂での救世観音の夢告により法然聖人の門弟となられる。35歳の時、専修念仏停止によって越後に流罪となり、39歳で赦免の後、妻・恵信さまや家族とともに関東へ移り、約20年間布教を行われた。1224年(元仁元年)に主著『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を著された。その後、京都に帰り著述活動を行われ、1263年1月16日(弘長2年11月28日)、90歳で往生。

★報恩講の案内

の報恩講は

月 日 から

月 日 です。

皆さまそろってお参りください。

編集：浄土真宗本願寺派総合研究所
重点プロジェクト推進室

2017.09.240,000

報恩講を縁に4



浄土真宗本願寺派
(西本願寺)

「出家学道」

年に一度の家庭訪問

山陰教区のある組では、重点プロジェクトの実践目標に「家庭報恩講の実施率を上げる」と掲げておられます。

その推進のための研修会でのことです。

昨今は、「メリットのないものには関わりたくない」のが一般的な風潮ですから、魅力を感じなければ受け入れてくれないのでしょうか。

そこで、「家庭報恩講の魅力」を、みんなで話し合ってもらいました。

ある方から、「ほんこさん(「報恩講さん」)は、年に一度の家庭訪問だと思います」との意見がありました。

年忌法要は頻繁ではありませんし、さらに月忌参りの習慣がなければ、何年もお寺との接点がない、という家庭もありうるでしょう。

そんな時に、お寺とご門徒とのつながりを、しっかり継続しておくには、「年に一度の家庭訪問」が必要だと考えてくださったのだと思います。

「家庭報恩講」は、家族全員でつとめていただく、とても大切な仏縁です。



切り絵 瓜生 智子

ほうおんこう 報恩講とは

真実のみ教えをお示しくくださった親鸞聖人に感謝し、阿弥陀さまのお救いをあらためて心に深く味わわせていただく、一年で、もっとも大切なご法要が、「報恩講」です。

「報恩講」という名称は、親鸞聖人のひ孫である本願寺第3代覚如上人が、親鸞聖人の33回忌にあわせて『報恩講私記』を著されたことに由来しています。

以来、700年を超える歴史の中で、先人たちが親鸞聖人ご命日の法要を「報恩講」として脈々と受け継ぎ、今日まで大切にお勤めしてきました。

家庭での報恩講をお勤めするとともに、ぜひ一般寺院や本山、別院など全国の浄土真宗のお寺でお勤めされる報恩講に、お参りしましょう。

ほうおんこう きえん
報恩講を機縁に、
親鸞聖人のおこころを
より深く味わうために…



〈施本「報恩講」〉

毎年9月1日発行

1部100円+税 / B6判・32頁

※「報恩講」の他、「お盆」「お彼岸-秋」「お彼岸-春」の施本も発行していますので、そちらもぜひお読みください。

■施本のお問い合わせは、本願寺出版社まで



0120-464-583

FAX 075-341-7753